

## 【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 2023年11月13日

【四半期会計期間】 第15期第2四半期(自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)

【会社名】 I C D Aホールディングス株式会社

【英訳名】 International Conglomerate of Distribution for  
Automobile Holdings Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 向井 弘光

【本店の所在の場所】 三重県鈴鹿市飯野寺家町234番地の1

【電話番号】 059-381-5540

【事務連絡者氏名】 管理部長 服部 宝

【最寄りの連絡場所】 三重県鈴鹿市飯野寺家町234番地の1

【電話番号】 059-381-5540

【事務連絡者氏名】 管理部長 服部 宝

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
株式会社名古屋証券取引所  
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第14期 第2四半期 連結累計期間	第15期 第2四半期 連結累計期間	第14期
会計期間	自 2022年4月1日 至 2022年9月30日	自 2023年4月1日 至 2023年9月30日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高 (千円)	15,093,846	15,308,482	30,496,316
経常利益 (千円)	878,805	809,259	1,404,341
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	565,071	537,130	883,501
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	575,263	619,194	969,694
純資産額 (千円)	8,174,016	9,076,962	8,568,448
総資産額 (千円)	15,362,611	17,503,476	15,618,817
1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	269.10	255.80	420.75
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	51.4	50.2	53.0
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,298,986	1,056,111	3,194,999
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,236,381	1,228,963	2,269,236
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	116,852	483,015	923,098
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	621,929	989,005	678,841

回次	第14期 第2四半期 連結会計期間	第15期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2022年7月1日 至 2022年9月30日	自 2023年7月1日 至 2023年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	145.66	146.06

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため、記載していません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 経営成績

当社グループの主要エリアである三重県下において、新型コロナウイルス感染症に対する行動制限が緩和されたことにより、経済活動は回復傾向となり、個人消費も回復傾向となっております。しかしながら、為替相場の影響や原材料費の高騰により製造業を中心とした経済活動の鈍化が懸念されております。

当社グループにおいては、従来より実施している既存顧客に対するフォローアップ活動の更なる強化を図ることにより、既存顧客からの受注は堅調に推移しております。しかしながら、前連結会計年度より継続している商品(車両及び部品等)の供給遅れ又は出荷停止等の影響が薄れているものの、従前の状況には回復はしていません。また、ロシアのウクライナ侵攻に伴う対ロシア経済制裁として中古車の対ロシア輸出禁止による中古車オークション相場の変動等、業績に与える影響が懸念されております。

これらの結果、売上高は153億8百万円と前年同期と比べ2億14百万円(1.4%)の増収、営業利益は7億93百万円と前年同期と比べ66百万円(7.7%)の減益、経常利益は8億9百万円と前年同期と比べ69百万円(7.9%)の減益、親会社株主に帰属する四半期純利益は5億37百万円と前年同期と比べ27百万円(4.9%)の減益となりました。

#### 売上高及び営業利益

売上高は153億8百万円と前年同期と比べ2億14百万円(1.4%)の増収、営業利益は7億93百万円と前年同期と比べ66百万円(7.7%)の減益となりました。セグメント毎の売上高及び営業利益は以下のとおりであります。

#### (自動車販売関連事業)

当セグメントにおきましては、新車販売は、半導体不足等による製造ライン稼働率低下の影響による商品供給は回復しつつありますが、在庫車両の販売等に注力することで新車販売台数は前年同期比を上回ることができました。国産新車販売台数は前年同期比0.5%減の2,540台となり、輸入車販売台数は前年同期比23.4%増の248台となりました。これらの結果、新車販売台数は前年同期比1.2%増の2,788台となりました。

中古車販売については、既存顧客からの受注が堅調に推移しておりますが、中古車オークション相場が、商品不足による中古車オークション相場の乱高下が解消されつつありましたが、対ロシア輸出禁止の影響を受け、中古車オークション相場が回復していません。これにより卸売(業販)が大幅に減少したことで、中古車販売台数は前年同期比12.0%減の4,367台となりました。

これらの結果、売上高は146億19百万円と前年同期と比べ2億18百万円(1.5%)の増収となり、セグメント利益(営業利益)は8億26百万円と前年同期と比べ34百万円(4.0%)の減益となりました。

#### (自動車リサイクル事業)

当セグメントにおきましては、生産台数(再資源化処理)は前年同期比4.8%減の4,355台となり、使用済自動車の入庫は、前年同期比0.5%増の4,323台となりました。売上高は、鉄及びアルミ並びに希少希土類(レアアース・レアメタル)等の資源相場の下落により減少しておりますが、輸出関連売上は増加しております。しかし、売上原価は、中古車オークション相場の大幅な価格変動の影響を受けて増加いたしました。

これらの結果、売上高は6億88百万円と前年同期と比べ3百万円(0.5%)の減収となり、セグメント利益(営業利益)は79百万円と前年同期と比べ31百万円(28.6%)の減益となりました。

#### 経常利益

営業外損益については、営業外収益は減少し、営業外費用も減少いたしました。営業利益は減少いたしました。これらの結果、経常利益は8億9百万円と前年同期と比べ69百万円(7.9%)の減益となりました。

#### 親会社株主に帰属する四半期純利益

親会社株主に帰属する四半期純利益については、経常利益の減少により、税金等調整前四半期純利益は8億9百万円と前年同期と比べて60百万円(6.9%)の減益となり、法人税等(法人税等調整額を含む)は2億57百万円となりました。これらの結果、当第2四半期連結累計期間における親会社株主に帰属する四半期純利益は5億37百万円と前年同期と比べ27百万円(4.9%)の減益となりました。

### (2) 財政状態の分析

#### 資産の部

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末より18億84百万円増加し、175億3百万円となりました。これは主に、商品及び製品の増加12億73百万円、現金及び預金の増加3億10百万円、受取手形及び売掛金の増加1億2百万円、土地の増加73百万円等によるものであります。なお、土地については、自動車販売関連事業における「SDGs×脱炭素経営」に向けた取り組みの一環として取得いたしました。

#### 負債の部

当第2四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末より13億76百万円増加し、84億26百万円となりました。これは主に、買掛金の増加9億18百万円、借入金の増加5億97百万円等によるものであります。

#### 純資産の部

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末より5億8百万円増加し、90億76百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上5億37百万円、配当金の支払1億4百万円によるものであります。

### (3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は前年同期と比べ3億67百万円増加し、9億89百万円となりました。当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は前年同期と比べ2億42百万円減少し、10億56百万円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益が8億9百万円、減価償却費4億9百万円、仕入債務の増加額9億18百万円等による資金の増加と、棚卸資産の増加額5億82百万円、法人税等の支払額2億48百万円等による資金の減少によるものであります。

#### 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果支出した資金は前年同期と比べ7百万円減少し、12億28百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出12億21百万円等によるものであります。

#### 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果得られた資金は前年同期と比べ5億99百万円増加し、4億83百万円(前期は1億16百万円の資金の支出)となりました。これは主に、短期借入金の増加額7億円等による資金の増加と、配当金の支払額1億5百万円、長期借入金の返済による支出1億2百万円等による資金の減少によるものであります。

### (4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題はありません。

### (5) 研究開発活動

該当事項はありません。

## 3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	6,000,000
計	6,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2023年11月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	2,100,000	2,100,000	東京証券取引所 (スタンダード市場) 名古屋証券取引所 (メイン市場)	完全議決権株式であり、権利 内容に何ら限定のない当社に おける標準となる株式であ り、単元株式数は100株であ ります。
計	2,100,000	2,100,000	-	-

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年9月30日	-	2,100,000	-	1,161,078	-	274,848

## (5) 【大株主の状況】

2023年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を除く。)の総数に 対する所有株式 数の割合(%)
株式会社エム・エフ	三重県鈴鹿市三日市町1901 - 5	529,270	25.20
向井 俊樹	三重県鈴鹿市	281,430	13.40
向井 弘光	三重県鈴鹿市	272,510	12.97
I C D Aグループ社員持株会	三重県鈴鹿市飯野寺家町234 - 1	173,065	8.24
向井 なよ子	三重県鈴鹿市	83,970	3.99
株式会社百五銀行	三重県津市岩田21番27号	63,000	3.00
岡三証券株式会社	東京都中央区日本橋1丁目17 - 6	58,100	2.76
株式会社三十三銀行	三重県四日市市西新地7番8号	42,000	2.00
向井 崇	三重県亀山市	40,000	1.90
株式会社フラクタル・ビジネス	長野県小諸市田町2丁目6 - 13	31,000	1.47
計	-	1,574,345	74.97

(注) 2023年5月1日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、株式会社フラクタル・ビジネス及びその共同保有者である奥村学が2023年4月26日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として2023年9月30日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
株式会社フラクタル・ビジネス	長野県小諸市田町2丁目6 - 13	74,100	3.53
奥村 学	長野県小諸市	31,500	1.50

## (6) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 200	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,098,300	20,983	同上
単元未満株式	普通株式 1,500	-	同上
発行済株式総数	2,100,000	-	-
総株主の議決権	-	20,983	-

(注) 単元未満株式のうち7株は、自己株式であります。

## 【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) I C D Aホールディングス 株式会社	三重県鈴鹿市飯野寺家町 234番地の1	200	-	200	0.00
計	-	200	-	200	0.00

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2023年7月1日から2023年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、五十鈴監査法人による四半期レビューを受けております。



## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	758,873	1,069,037
受取手形及び売掛金	498,015	600,791
商品及び製品	3,384,094	4,657,275
仕掛品	7,277	2,921
原材料及び貯蔵品	88,151	74,580
その他	209,653	309,958
貸倒引当金	203	224
流動資産合計	4,945,862	6,714,339
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,391,485	2,300,328
土地	5,796,139	5,869,373
その他(純額)	1,370,347	1,467,436
有形固定資産合計	9,557,971	9,637,138
無形固定資産	37,758	37,211
投資その他の資産	1,077,224	1,114,787
固定資産合計	10,672,955	10,789,136
資産合計	15,618,817	17,503,476

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,794,507	2,713,465
短期借入金	1,495,120	2,092,130
未払法人税等	269,088	239,391
前受金	1,575,975	1,606,171
賞与引当金	161,034	162,334
その他	635,279	473,073
流動負債合計	5,931,004	7,286,565
固定負債		
役員退職慰労引当金	323,888	330,270
退職給付に係る負債	729,593	749,168
その他	65,882	60,508
固定負債合計	1,119,364	1,139,948
負債合計	7,050,369	8,426,513
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,161,078	1,161,078
資本剰余金	1,148,992	1,148,992
利益剰余金	5,882,432	6,314,573
自己株式	378	378
株主資本合計	8,192,124	8,624,266
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	27,732	97,652
退職給付に係る調整累計額	60,471	58,141
その他の包括利益累計額合計	88,204	155,794
非支配株主持分	288,118	296,901
純資産合計	8,568,448	9,076,962
負債純資産合計	15,618,817	17,503,476

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	15,093,846	15,308,482
売上原価	12,063,258	12,252,334
売上総利益	3,030,588	3,056,147
販売費及び一般管理費	1 2,170,903	1 2,262,648
営業利益	859,685	793,499
営業外収益		
受取配当金	5,203	5,919
受取賃貸料	5,700	6,200
受取保険金	18,166	6,428
受取負担金	-	2,780
その他	3,106	3,804
営業外収益合計	32,175	25,132
営業外費用		
支払利息	7,006	6,158
支払手数料	1,637	1,256
その他	4,411	1,958
営業外費用合計	13,055	9,372
経常利益	878,805	809,259
特別損失		
固定資産除却損	9,330	-
特別損失合計	9,330	-
税金等調整前四半期純利益	869,475	809,259
法人税、住民税及び事業税	274,856	219,627
法人税等調整額	8,398	38,012
法人税等合計	283,254	257,640
四半期純利益	586,220	551,618
非支配株主に帰属する四半期純利益	21,149	14,487
親会社株主に帰属する四半期純利益	565,071	537,130

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	586,220	551,618
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	10,602	69,920
退職給付に係る調整額	355	2,344
その他の包括利益合計	10,957	67,575
四半期包括利益	575,263	619,194
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	553,961	604,721
非支配株主に係る四半期包括利益	21,301	14,472

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	869,475	809,259
減価償却費	366,344	409,637
賞与引当金の増減額(は減少)	7,146	1,299
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	5,745	6,382
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	7,339	16,216
受取利息及び受取配当金	5,252	5,960
支払利息	7,006	6,158
固定資産除却損	9,330	-
売上債権の増減額(は増加)	71,525	102,776
棚卸資産の増減額(は増加)	746,238	582,998
仕入債務の増減額(は減少)	477,124	918,958
前受金の増減額(は減少)	58,707	30,195
その他	75,719	201,278
小計	1,599,150	1,305,092
利息及び配当金の受取額	5,252	5,960
利息の支払額	7,030	6,177
法人税等の支払額	298,386	248,764
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,298,986	1,056,111
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	30,000	20,000
定期預金の払戻による収入	50,000	20,000
有形固定資産の取得による支出	1,233,560	1,221,270
投資有価証券の取得による支出	13,324	3,285
その他	9,496	4,407
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,236,381	1,228,963
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	100,000	700,000
長期借入金の返済による支出	102,990	102,990
配当金の支払額	104,916	105,048
非支配株主への配当金の支払額	5,690	5,690
その他	3,256	3,256
財務活動によるキャッシュ・フロー	116,852	483,015
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	54,247	310,163
現金及び現金同等物の期首残高	676,177	678,841
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 621,929	1 989,005

## 【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
給与手当及び賞与	589,243千円	586,193千円
賞与引当金繰入額	109,006千円	110,570千円
退職給付費用	24,467千円	22,906千円
役員退職慰労引当金繰入額	5,745千円	6,382千円
減価償却費	344,957千円	391,066千円
広告宣伝費	233,597千円	244,106千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
現金及び預金	701,960千円	1,069,037千円
預入期間が3か月を超える定期預金	80,031千円	80,031千円
現金及び現金同等物	621,929千円	989,005千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月22日 定時株主総会	普通株式	104,989	50	2022年3月31日	2022年6月23日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年6月28日 定時株主総会	普通株式	104,989	50	2023年3月31日	2023年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 連結損益計算書 計上額(注) 2
	自動車販売 関連事業	自動車 リサイクル事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	14,401,665	692,180	15,093,846	-	15,093,846
セグメント間の内部 売上高又は振替高	21,836	19,579	41,415	41,415	-
計	14,423,501	711,760	15,135,261	41,415	15,093,846
セグメント利益	861,260	110,740	972,000	112,315	859,685

(注) 1. セグメント利益の調整額 112,315千円には、セグメント間取引消去 2,197千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 110,118千円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない純粋持株会社である当社の子会社統括事業に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 連結損益計算書 計上額(注) 2
	自動車販売 関連事業	自動車 リサイクル事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	14,619,917	688,565	15,308,482	-	15,308,482
セグメント間の内部 売上高又は振替高	27,719	26,399	54,119	54,119	-
計	14,647,636	714,964	15,362,601	54,119	15,308,482
セグメント利益	826,737	79,048	905,785	112,286	793,499

(注) 1. セグメント利益の調整額 112,286千円には、セグメント間取引消去1,988千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 114,275千円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない純粋持株会社である当社の子会社統括事業に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント			合計
	自動車販売 関連事業	自動車 リサイクル事業	計	
新車(国産車)	5,699,051	-	5,699,051	5,699,051
新車(輸入車)	941,898	-	941,898	941,898
中古車	6,005,553	-	6,005,553	6,005,553
サービス(車検・点検整備等)	1,748,499	-	1,748,499	1,748,499
その他	6,661	-	6,661	6,661
自動車リサイクル(部品・資源等)	-	692,180	692,180	692,180
顧客との契約から生じる収益	14,401,665	692,180	15,093,846	15,093,846
その他の収益	-	-	-	-
外部顧客への売上高	14,401,665	692,180	15,093,846	15,093,846

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント			合計
	自動車販売 関連事業	自動車 リサイクル事業	計	
新車(国産車)	6,107,262	-	6,107,262	6,107,262
新車(輸入車)	1,181,133	-	1,181,133	1,181,133
中古車	5,450,921	-	5,450,921	5,450,921
サービス(車検・点検整備等)	1,873,807	-	1,873,807	1,873,807
その他	6,791	-	6,791	6,791
自動車リサイクル(部品・資源等)	-	688,565	688,565	688,565
顧客との契約から生じる収益	14,619,917	688,565	15,308,482	15,308,482
その他の収益	-	-	-	-
外部顧客への売上高	14,619,917	688,565	15,308,482	15,308,482



## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
1株当たり四半期純利益	269円10銭	255円80銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	565,071	537,130
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	565,071	537,130
普通株式の期中平均株式数(株)	2,099,793	2,099,793

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年11月13日

I C D Aホールディングス株式会社  
取締役会 御中

五十鈴監査法人

本部・津事務所

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 下 津 和 也

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 中 出 進 也

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているI C D Aホールディングス株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、I C D Aホールディングス株式会社及び連結子会社の2023年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。